

令和6年度 事業所別事業報告

事業所 【 法人本部 】

I 令和6年度の状況

令和6年度は、第六期3ヵ年計画がスタートした。

新型コロナウイルスが流行し中止となっていた「論語三代（11/23）」「福生会まつり（10/29・30）」を開催。福生会まつりについては、福生会創立30周年のお祝いも兼ねて実施した。各事業所においても行事の開催や、ボランティアの受入れの再開、ご家族面会方法を対面での面会に変更する等、少しずつではあるがコロナ禍以前の生活に戻している。しかし、高齢者や基礎疾患を持つ方々が利用する施設であるため、地域の感染症状況を確認しながら、体調管理と手洗い・消毒等の感染症対策を継続実施している。

経営課題としては、様々な物価高騰の影響、最低賃金引上げによる人件費の増加、職員の確保、利用者の獲得があげられる。法人本部として、法人内部の連携・強化を図りながら、支出の管理はもとより、地域やそれぞれの拠点の実情を調査し、できる取組みから確実に実践していくことが重要となっている。

II 評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	コンプライアンス（法令遵守）の強化	- 令和6年度 鳥取県社会福祉法人指導監査：法人本部（指導・指摘を受けて改善した） - 三朝町運営指導：グループホーム（指摘事項なし） - 法令遵守及び虐待防止に努めた。 - 全体会（研修）「交通安全」「職業倫理法令遵守」「虐待防止」実施した。
	②	非常時における安全確保・対策	- 防災訓練回数 三朝温泉三喜苑 避難訓練 2回実施した。（日中想定1回・夜間想定1回） 夜間通報訓練 2回実施した。（そのうち1回は抜き打ちで実施） グループホーム仁の里 避難訓練 2回実施した。（日中想定1回・夜間想定1回） 三喜苑西郷（通所介護） 避難訓練 1回実施した。（日中想定1回） - 防災研修を実施した。99名参加した。 - 職員の労働災害：業務災害2件（嘔まれた傷・頭部外傷 頸椎捻挫（入院）2件）（令和4年度：32件（内25件が職場内でのコロナ感染）／令和5年度：3件）
	③	職員の確保と定着	- 苦情相談受付件数 6件 （令和5年度：3件） 毎月苦情解決委員会を開催し、苦情、相談、質問について内容を確認し、対応策や解決結果について確認した。 - 苦情解決第三者委員会を開催し、発生した苦情解決状況等を説明及び意見聴取した。（年間2回／4月、10月実施） - 職員状況 採用13名・退職13名 - 労働者不足の対策 公共職業安定所（ハローワーク）の活用、有料紹介会社へ情報収集・発信した。（採用経路：ハローワーク（6名）、有料紹介会社（2名）、職員の知り合いの紹介など（5名）） - 育児休業中の職員への情報提供や情報収集にも努め、スムーズな職場復帰へ確認・調整した。 - 感染症対策を整備し感染予防に努めた。 マニュアルの見直し 面会室にてご家族との面会を対面で実施 （地域の感染状況によって面会室を仕切って（非接触）対応した） 利用者の新型コロナウイルスワクチン集団接種（1回）を実施した。 抗原検査キットを購入し、職員の同居家族が感染した場合に感染状況確認のため検査を実施した。
能力開発	①	職員個々の資質向上（研修参加・資格取得支援と受講・内部研修の充実）	- 各種研修会を毎月実施 全体会（年間12回開催）：平均90名参加あり。（令和5年度：平均 87名参加） 職員研修（年間7回）：平均25名参加あり。（令和5年度：平均 21名参加） *全体会…予備日を設けて研修に参加しやすい体制に変更した。 - 施設外研修 延べ173名参加（令和5年度：延べ 119名） - 新人研修（年間3回）：対象者 8名受講

能力開発	①	職員個々の資質向上（研修参加・資格取得支援と受講・内部研修の充実）	- 令和6年度実績（取得状況） 介護施設における安全対策担当者養成研修 2名 介護福祉士 1名 認知症実践リーダー研修 2名 認知症介護実践リーダー研修 1名 介護支援専門員更新研修 2名 リーダー育成講座 2名 社会福祉法人会計実務講座 1名 - 鳥取県保育士等 キャリアアップ研修専門分野別研修 5名 （①乳児保育 3名、⑤保健衛生・安全対策 1名、⑥マネジメント研修 1名） - 施設内研修（新人研修・職員研修・全体会）については、アンケートを実施し研修の評価・振り返りを行った。
	②	給与・働き方に関する規程の見直し（同一労働同一賃金への対応）	- 年次有給休暇の確実な取得に向けた仕組みについて、新規採用者研修時の説明や衛生委員会、リーダー会への情報提供、法人本部近況報告等により周知した。 - 鳥取県最低賃金改定と保育事業における処遇改善加算の単価改正に伴い、役職員給与規程を改正した。（鳥取県最低賃金900円から957円に引き上げられた）
	③	業務の見直しと効率化（業務手順の見直しと統一）	- WEB会議ツール「ZOOM」を活用して、委員会、研修、他事業所とのカンファレンス（会議）等を実施した。 - 令和5年度に設置したインカム、グループウェアの活用ができていない。引き続き業務改善に繋がるよう検討する。 ※ インカム：インターコミュニケーションシステム 無線機器の一種 ※ グループウェア：スケジュールや業務管理などのソフトウェア
地域	①	職員の派遣（研修講師・介護教室など）／ボランティアの活用・見直し	- ボランティア受入 77名 （令和5年度：6名） - 講師派遣（17回派遣）… 三朝町主催 介護予防教室 3回 老人クラブ連合会主催介護教室 6回 （令和5年度：13回派遣） 三朝町社会福祉協議会主催 健康教室 8回
	②	情報開示・発信（HP・広報誌）	- 情報公開（決算状況）：ホームページ（HP）に情報を掲載（公表）した。（法人事務所（玄関）でも情報公開している。） - 福生会ニュース（ホームページ上の名称） 月平均98件情報発信した。（令和5年度：平均107件） - 各事業所の重要事項説明書を公表（書面掲示及びホームページ公表） - 機関紙「太陽」年4回発行した。（115号～118号） - 社会福祉法人の財務諸表等電子開示システムの運用開始
	③	カネ：社会福祉充実残額の算定と計画	- 令和5年度における社会福祉充実残額は△447,550,000円のため、社会福祉充実計画の策定は不要ではあるが、公益的取組み（地域貢献）は実施した。 公益的取組み：介護予防教室への講師派遣 等 - エコキャップ運動に参加（地域貢献委員会） - 利用者負担軽減制度の実施：対象者 2名 - 福生会まつりを開催（2日間）：利用者と利用者家族、職員のみ参加 - 論語三代を開催（賀茂保育園にて）： 約50名の参加あり（出演園児・スタッフ除く） - 認知症カフェ（わらわあ会）…0回
業務	①	支出管理の強化	- 月毎の収入や予算執行状況を所属長等に報告し、収支状況等の情報共有を図った。（運営会議及び月次決算報告書など） - 三喜苑西郷通所介護事業所 建設資金借入金完済（令和7年1月15日80,000,000円完済）
	②	設備投資と計画（エコ・大型機器の入れ替え・計画）	- 補助金事業 なし - 大型機器の入替え等 … 天井走行リフト
	③	法人本部の機能強化及び「組織」の見直し	- 現況報告書（定期報告）の提出。 - B C P（業務継続計画）を全体会研修で説明した。 - 役職員の人事（異動、採用、更新など）

令和6年度 事業所別事業報告
事業所 【 介護老人福祉施設 】

I 令和6年度の状況

- ・令和6年度は3回の感染症対応を行った。職員が媒介するケースが多く、引き続き感染対策の徹底が求められる。
入所者には持病もあり、また医療依存度の高い方も多く、感染する事でより心身機能が低下する方も多く見られた。
- ・入所者の平均介護度は4.0で平均年齢は89歳となっている。透析や経管栄養などが必要な方も多く、家族や医療機関と連携しながら、施設ででき得る対応を実施してきた。
- ・今年度の看取りケア対象者は12名であった。引き続き看取りケアの推進にも努め、最期まで慣れ親しんだ施設で生活が送れるよう、各職種が連携を図り早めの対応に努めていく。
- ・入院者は1日平均5.3名。目標数（5.5名／日）を下回る事ができたが、日頃からの健康観察や早期対応で、今後減らせる事は可能と考える。
- ・今年度の新規入所者は31名、退所者は35名。年間を通して満床月が無かった。入所準備を早めに行い、空床日数を減少させていく事が課題となっている。
- ・ICTの活用においては、見守りセンサー、ほのぼのTalkインカムシステムを導入したが、まだ十分に活用しきれていない。特にインカムシステムにおいては、業務の効率化を進める上でも使用方法を理解し活用していく。
- ・各専門性を向上させ入所者のケアに活かせるよう、研修への参加やその伝達の方法についても次年度以降検討していく事が課題。

II 目標

項目	重点目標	実施内容
サービス	① 専門的な介護サービスの提供	・認知症ケア会議は毎月開催でき、対応方法や関係機関との調整についても話し合いを行い、個別での対応に繋がった。 ・学習療法対象者は2名（今後対象者を増やしていく事も検討）。 ・看取り期への見極めが遅れる事があった。タイミングを逃さず加算が取れるように、家族、主治医とも連携していく。 ・医療と連携し、体調管理と異常の早期発見に努め、入院者数の目標を達成できた。 ・毎月1回の口腔評価実施ができていなかった。歯科医による評価は10月から全入所者に実施し、助言をケアに活かしている。 ・多職種による食事観察を行い、食事形態や食事時の姿勢、栄養補助食品等を検討し、経口摂取の維持・継続に努めている。
	② 楽しみながら、安心、安全、満足の得られる生活の提供	・行事も再開でき、楽しみのある食事、おやつの提供も出来た。 ・虐待についてアンケートを実施し、ケアの場面での不適切な言動を振り返り、接遇と共にサービスの質向上についても特養ミーティングなどで検討した。 ・褥瘡発生数は減少傾向。治癒と再発を繰り返す方への対応が課題。 ・ふるさと訪問や季節ごとの外出行事などを実行できた。 ・感染症が発生した場合でも、入所者に過剰な隔離生活を強いるのではなく、感染対策を実施しながらできるだけ平常時の生活を送っていただけよう取り組んだ。 ・長寿健康祈願祭を開催。（3月19日（みとくの日）三徳山三仏寺住職） ・感染症対応マニュアルの見直しに取り組んだ（最終まとめは次年度へ）。
	③ 病院との連携をはかる	・入退院時の情報共有は行っている。

能力開発	①	特養ミーティングで各種研修を開催し理解を深める	・ 介護職員に対して以下の研修会を開催した。当日参加できなかった職員へは予備日を設け、伝達研修を行った。（リスクマネジメント、感染症予防、身体拘束、虐待防止、看取り介護、認知症介護）
	②	認知症利用者への対応力向上	・ 認知症介護実践者研修に2名参加し、修了する事ができた。 ・ 特養ミーティングを通じて伝達研修を行った。今後は、ユニットミーティングなどでの伝達研修も計画していく。
地域	①	地域の保育園・小中学校・ボランティアとの交流	・ 感染予防に努めながら、生け花クラブの活動を再開した。また、演芸ボランティアの受け入れも行った。
	②	福生会ニュースを掲載する	・ 福生会ニュースを年間27回HPへ掲載した。（目標：月2回以上掲載）
業務	①	職員の健康維持	・ 腰に負担のかからない介助法の指導、実践を行う ・ 福祉用具の活用を図る
	②	職員の定着を図る	・ エルダー制他、指導体制の見直しが図れなかった。 ・ 勤務内容やマニュアルの見直しも含め修正できなかった。 次年度への課題。
	③	安定的経営を目指す	・ 入院者数：5.3名／日（目標：5.5名／日） ・ 満床になる事が無かった。情報収集や家族への説明など、早めの対応に努めて行く。
	④	効率化を図る	・ ほのぼのTalkインカムシステムが使用できていない。各職種等と連携がとれるよう、担当を決めるなどして今後使用していく。 ・ 勤務内容やマニュアルの見直しも含め、修正できなかった。 次年度への課題。

注 福生会ニュース = 社会福祉法人福生会のホームページにある情報発信ページ

<令和6年度入所者状況>

平均要介護度：4.0

退所者数：35名

（看取り11名、病院退所11名、他13名）

待機者数：38名（3/31現在）

入院者数：5.3名/日

空床日数：1,239日

※参考：令和5年度入所者状況

平均要介護度：4.0

退所者数：29名

（看取り15名、病院退所4名、他10名）

待機者数：48名（3/31現在）

入院者数：6.4名/日

空床日数：487日

令和6年度 事業所別事業報告

事業所 【 短期入所生活介護事業所 】

I 令和6年度の状況

- 令和6年度の短期入所利用者は1日平均15.59名だった。
4月から7月にかけて新型コロナウイルス感染者が発生し受け入れを制限した。（11.78名／日）
8月以降については、感染症マニュアルを変更し、感染者が発生した場合でも感染症対策を実施しながら受け入れを行った。（17.5名／日）
- 新規のショート利用者は42名。その内14名の方が継続して利用されている。（定期利用10名、特養入所までの利用4名）28名の方については他施設への入所や入院、お亡くなりなられるなどの理由で利用が中止となった。
- 医療依存度の高い方や認知症も重度の方が増え、専門職としてより高いレベルを求めらる事より、必要な研修への参加と伝達研修の実施、家族や関係機関との連携もより重要となって来る。

II 目標

項目	重点目標		実施内容
サービス	①	認知症利用者への適切なサービス提供	- 認知症日常生活自立度Ⅲ（※）以上の受け入れは、12月以降は50%以上で推移している。（50～52%） - 認知症ケア会議は毎月開催でき、対応方法や関係機関との調整についても話し合いを行い、個別での対応に繋がった。
	②	利用者のニーズの把握と細かい対応の実施	- 援助内容確認書を活用し、在宅での生活を維持できるよう利用者の最新の状況を職員間で把握し、機能維持に努めた。 - 急変時など状況が変わった方の対応についても、家族やケアマネと連絡を取り、必要に応じて受診などに繋げる事ができた。 - 看取り対応についても今後該当者が出て来る事も想定し、病院（主治医）と準備を整える事ができた。 - 利用中の状況を家族やケアマネに情報を提供した。（体調の変化があった場合や、家族が気になっている事についての経過報告など）
能力開発	①	認知症利用者への対応力向上（介護老人福祉施設と同様）	- 認知症介護実践者研修に2名参加し、修了する事ができた。 - 特養ミーティングを通じて伝達研修を行った。今後は、ユニットミーティングなどでの伝達研修も計画していく。
地域	①	居宅介護支援専門員との連携	サービス担当者会議への出席率は100%。家族や関係機関との情報共有を行い、必要な援助に活かしている。
業務	①	利用者確保	- 短期入所利用者は1日平均15.59名。特に下半期では1日22名の利用日もあった。空きベッドの活用も行えている。 - 新規は42名。ケアマネより利用依頼があった際は、積極的に受けるように努めた（透析などで断る場合もあった）。
	②	夜勤職員配置加算の算定要件確保	認定特定行為業務従事者（介護士の吸引、胃ろうの対応）の夜勤者配置は行えている（毎日1名）

※ 認知症日常生活自立度Ⅲ＝日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ介護を必要とする。

<令和6年度入所者状況>

利用延べ人数 : 5,689名
 平均要介護度 : 2.8
 1日平均人数 : 15.59名

※参考：令和5年度入所者状況

利用延べ人数 : 5,299名
 平均要介護度 : 2.9
 1日平均人数 : 14.5名

令和6年度 事業所別事業報告
事業所 【 通所介護事業所 】

I 令和6年度の状況

令和6年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、利用基準が変更された事により休業する事はなく、全体の延べ利用者数は増加した。しかし、利用者本人や同居家族が陽性になった場合は10日間の利用中止となるケースが多く、これが収入減少の一因となっている。特に家族の療養期間より利用中止期間が長くなることから、家族の介護が必要な場合には仕事を休んだり、代替のケアが必要になる等家族への負担も課題となっている。また、前年度と同様に新規利用者に対し利用終了者がわずかに上回っており、その内4割は入院を経てロングショート利用に移行したり、死亡などにより1年以内に利用が終了しており、継続利用に繋がっていない。一方で昨年度4月以降18名の方の利用回数が増えている。今後も、新規利用者の獲得を目指すとともに「リピーターを増やす」「キャンセル率を減らす」事で収入増加に繋げていきたい。

II 評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	利用者に応じた機能訓練の実施	- 令和6年度の介護報酬改定にて、事業所評価加算が廃止となる。 - 計画書作成、機能訓練実施、評価を適宜実施した。機能訓練を平均360名実施した。(16.6名/日)
	②	楽しみ、やりがいのある活動の提供	- 野菜作りや調理活動など、利用者の興味のある事や趣味に合わせた活動の提供や、廊下の壁面を利用した脳トレも継続している。新しい内容の集団レクリエーションにも取り組んでいる。JOYSOUNDを活用したカラオケを楽しまれる方も増えてきている。 - コロナで控えていた外出行事を増やしたり、ボランティアの受け入れを再開し、行事や単独で催しを企画し依頼をした。夏休み期間は学生(小学生・高校生)のボランティアの受け入れもした。
	③	家族・各事業所との連携強化	- 新型コロナウイルス感染症が5類になり、利用基準が変更されたが本人・家人が感染した場合は利用中止となる為、家人や各事業所と連絡を取りながら体調把握と情報共有に努めた。他事業所を利用されている方の連絡事項についても電話やメールで情報共有をし、サービス内容の統一を図った。 - 担当者会議に参加、又は照会・情報提供し、家族・各事業所へ状況報告を行った。 - 毎月1日から2日のうちに実績報告を行った。モニタリングは遅れながらも毎月提出した。
能力開発	①	職員の資質向上と人材育成	- ミーティングで勉強会を実施した。(5月：入浴介助、移乗方法 7月：吐物処理 8月：接遇について 11月：虐待について 12月：認知症 1月：救命救急 2月：入浴介助)動画研修や実践的な研修を実施した。 - 施設外研修はレクリエーション研修6名、認知症実践者リーダー研修1名、リーダーシップ研修1名、福祉職員キャリアパス対応生涯研修1名参加。施設内研修年5回、延べ40名参加。 - 主任による面談は年1回しか実施できなかった。個別指導は随時行った。
	②	接遇力とサービスの質の向上	- 利用者・家族向けアンケートを11月に実施した。12月に集計・結果報告をした。今後の取り組みに生かしていく。(66名に配布し62名から回答あり：回収率94%) - 部署の目標も見直しながら、個人目標を立て個々の接遇力の向上に努めた。 - 事故件数：年間27件(内1件 骨折のため入院) - 苦情件数：年間3件(職員間の連携不足、接遇、介助方法について)

地域	①	地域貢献と地域への発信	・ 他団体からの依頼により、健康教室に講師を派遣した。（年間5回）地域住民延べ33名の参加があった。 ・ 「三朝を何とかしよう会」のあいさつ運動に5名、「介護の日」のティッシュ配りに1名参加。キュリー祭に参加予定であったが新型コロナウイルス感染症の為、参加を辞退した。 ・ 福生会ニュースは行事や日常の様子等を掲載し情報発信した（年間44件）
業務	①	利用者の確保	・ 利用者数実績：介護保険利用者目標27名/日に対し、22.1名/日。（要介護17.2名/日 要支援・事業対象者4.9名/日）新規利用者20名/年。利用終了者24名/年。 ・ 新しいパンフレットは作成できなかったが、デイ新聞とカレンダーを毎月作成し、各事業所へ配布した。新聞やホームページに空き情報を掲載した。 ・ キャンセル率年間平均11.23%。冬季は体調不良や雪の為に休みが多かった。
	②	業務改善	・ 担当業務やモニタリング、行事準備等の進捗状況が分かるように見やすい場所に掲示した。声を掛けあったり協力し合いながら業務を進めた。 ・ 各業務の問題点等について都度確認と相談を行い見直し、改善を行った。
	③	職員の健康維持及び福利厚生	・ 福祉用具を活用したり、無理せず2人介助を行うなど腰痛予防に努めた。腰痛を抱えている職員はいるが、腰痛で休む職員はいなかった。 ・ 車両事故2件/ケガなし（送迎中の事故2件）、労働災害0件。車両事故については対策を検討し運転指導を行なっている。体調（腰痛等）の確認をし安全な送迎に努めている。 ・ 全職員が年次有給休暇を年5日以上取得した。

令和6年度 事業所別事業報告

事業所 【 ケアハウス 】

I 令和6年度の状況

年度中の退居は5名、入居は4名。退居の原因は持病の悪化や居室での転倒でケアハウスでの生活が難しくなり退居される方が多い。中には自立されている方が、ご自宅へ戻られ退居となる場合もあった。ご利用者のお言葉や日々の問い合わせ内容からは、ケアハウスに対する認識が実際のケアハウスでの生活とは違う事が分かってきた。入居されている利用者は身体・認知機能的自立度の差が大きく、生活の中で支援が必要な方が増えているため行事等で複数名一緒での外出は、支援が難しく対応が出来ない。利用者からも個別の対応を希望される声が多い。急な通院や入院も多かった。ご家族が県外在住や高齢で対応が難しくヘルパー付き添いも急遽は対応が難しい。入居相談は、高齢の方や医療依存度が高く持病や精神疾患を有される方、低所得者の相談が増えている。職員体制の変化に応じて情報を把握しやすく間違いに気が付ける様に、業務内容を明確にし視覚化やチェック体制の確立など業務改善を重点的に行った。感染症対策は症状の有無など状況に応じ、適宜対策を検討し変更した。

II 評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	サービスの質の向上 (全体)	- ミニ講座は実施できたが、専門分野の担当者に講座を依頼出来なかった。ケアハウス職員がご利用者に聞き取りを行い、要望に合わせ資料を作成し実施した。 - 避難訓練への参加は、体調や精神的負担により参加されないご利用者が数名おられる。参加されるご利用者は、毎回同じ方となっている。
	②	サービスの質の向上 (個人)	- 外出を希望される方は9名。その中で、車いすや付き添いが必要な方は4名。外出支援は期間を延長しながら個別に行った。 - 家族への手紙は毎月送付できたが、翌月の半ばを過ぎる事が多かった。機関紙の発行は、PC操作が難しい職員も多いため編集作業が一人の職員に集中した事もあり、殆ど発行できなかった。他の職員へ編集方法の指導をする時間を取る事が難しかった。 - アドバンスケアプランニングの希望者がなく、個別に説明し勧める機会を設ける事が出来なかった。 - 連携施設と適宜情報を共有する事に努めた。
能力開発	①	人材育成と資質向上	- 健康管理、事故防止、認知症等について施設内研修を利用し個々に学んだが、職員研修に参加した職員からの伝達が出来なかった。 - 施設内研修は全体会を除き1名1回、外部研修はオンライン含め2名5回参加。研修報告は2回実施。
	②	接遇力向上	- 接遇評価を継続実施し、毎月振り返りを行った。 - 利用者、家族へのアンケートを実施した。いただいた意見については、職員間で共有し、今後の運営改善に努めた。
地域	①	地域、保育園、学校との交流	- 近隣の保育園2カ所の運動会に招待され、各2名ずつ参加された。 - 地域行事では、三朝町駅伝の街頭応援に5名参加された。
	②	地域貢献の実施	ボランティア活動（花いっぱい運動、ペットボトルキャップ、ベルマーク収集）を継続しているが、プランターの花が猛暑で枯れてしまったため代わりの花を準備した。花の水やり当番を早番が帰る時にしていたが、早番の退勤前業務に組み込む事で水やりを忘れない様に対策をした。

業務	①	安定的経営	・ 初月在籍人数15名（満床）は、11ヵ月達成。1ヵ月未達成。待機者の確保は年間4名。 ・ 関係機関は、ご利用者のケアマネや主治医を主に情報提供を密に行い連携強化を図った。営業活動を年6回計画していたが、ご利用者の対応に追われ職員体制が整わない事もあり営業に出る事が出来なかった。
	②	ホームページの活用	・ 福生会ニュース掲載は年間30件。毎月定期的な掲載が出来なかった。ご家族アンケートで、ホームページや福生会ニュースを見ておられない方が殆どである事が分かった。中には見る環境がない方もあった。
	③	業務改善	・ 担当業務や業務の変更を意識できる様な仕組みを作り、職員同士で確認し合い連携して業務に取り組んだ。マニュアルとは別に写真付きの業務手引書を作成し、職員異動時の精神的負担や業務ミスの削減、指導の負担軽減を図った ・ 他部署との情報共有は、相手の立場に立って必要な情報を選択し共有する事に努めたが、情報を提供する事を忘れる事もあった。

令和6年度 事業所別事業報告

事業所 【 グループホーム 仁の里 】

I 令和6年度の状況

令和6年度入院延べ日数44日（令和5年度28日）令和6年度退所後空床延べ日数66日（令和5年度69日）。利用者の重度化に伴い入院リスクの増加も危惧される。また退所者も4名と利用者の入れ替わりも多くあり、担当ケアマネジャー、家族、入所先事業所との連携が思うように取れないことが退所後空床の増加に繋がった。また入所者の入れ替わりと共に平均介護度も令和6年度当初3.1から年度末2.3と大幅に下がった事もあり、医療依存度も比例して下がった為令和7年度は入院者数の減少に注力して行きたい。

II 評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	利用者のニーズに合わせた個別支援の充実	- 毎月調理活動を行っている。行事の際もプラスで活動を実施 - 毎日可能な範囲での役割の提供をお願いしている（洗濯物たたみ、洗濯物干し、調理、シーツ交換、清掃、草取り等）
	②	心身機能を維持し、活力のある生活を送る	1日1回の集団リハビリの実施。谷口病院PTより指導して頂いた内容での個別リハビリの実施を行った。（9名加算対象）
	③	認知症症状に対する適切な対応・安全管理の徹底	- 毎月ミーティング時に認知症ケア会議を実施した。 - 今年度重大事故の発生はなかったが、転倒事故は依然と続いている為、対策防止の為ミーティングを活用して協議を行っている。
能力開発	①	学ぶ意識・資質の向上を目指す	勉強会を年2回実施（認知症ケア、コスト削減について）
	②	認知症に関わる知識の習得	令和6年度:外部研修参加なし
地域	①	運営推進会議の開催	2ヵ月に1回の会議を予定通り開催 - 令和7年度から仁の里利用者の出席も行う予定
	②	防災訓練の実施	6月に倉吉消防署職員立ち合いの下、日中想定避難訓練実施（訓練後消火器使用体験実施） 11月に山田地区消防団と合同の夜間想定避難訓練実施（消防団4名参加）
	③	地域に貢献する	- 認知症カフェ（わらわあ会）未実施 - 長期で未実施であったこともあり、今まで参加されていた方が他の事業所の活動に参加されたり、体調が悪くなった等を理由に欠席が続いた。新規の参加者についても現状なし
	④	地域を理解し信頼関係を築く	- 三朝町山田地区一斉清掃、総事への参加 - 日々散歩等で地域住民と会った時は挨拶に心掛けた - その他地域行事への参加はできていない
業務	①	働きがいのある環境を整える	- 全職員が年5日以上の子次有給休暇取得達成できた - 残業時の事前申請の徹底を行った。全体会、研修以外での残業はほぼなかった
	②	安定的な経営を目指す	- 令和6年度年間入院延べ日数：44日 - 令和6年度年間空床延べ日数：66日
	③	接遇力の向上	業務中の利用者への言葉遣いについて目標に掲げ、職員同士注意しあう環境を作り、気を付けた。

令和6年度 事業所別事業報告

事業所 【 三喜苑西郷 】

I 令和6年度の状況

今年度の延べ利用者数は3,169人で令和5年度の3,120人と比較し49人の増となった。感染症対策のためのキャンセルはあったが、新型コロナウイルス感染症や天候不良による休業はなかった。平均要介護度は前年度の1.35から1.69に上がり、通所介護での利用者が前年度の2,012名から2,394名に増加。前年度からの収入増に繋がった。一方、独居や高齢で重い持病のある利用者が、入院や他施設入居等の理由で利用終了された方もあった。今後も各関係機関との信頼関係を深めるとともに、職員の質やサービスの質を向上させ、選ばれる事業所を目指していく。

II 評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	利用者に応じた機能訓練の実施	- 機能訓練計画書：延べ 119名作成 - 訓練実施者数：延べ2,670名 - 評価者数：延べ311名 - 午前にラジオ体操やテレビ体操、午後に生活リハビリ体操等を実施した。 - 移乗介助等が必要な方に対してスライディングボードを活用。 - 職員の腰痛での休みはなく、介助中の事故もなかった。
	②	能力や好みに応じた活動の提供	- 興味関心チェックリスト作成し、個人の好みに合わせた個別活動の充実を図った。（読書、塗り絵、パズル、作品作り、囲碁、散歩等） - 新型コロナ感染症対策のためボランティアの来苑行事が実施できなかったが、職員でできる催しや外出行事等工夫しながら行事の充実を図った。また利用者のリクエストに応えた手作り昼食を実施し、食の満足度向上を目指した。
	③	各事業所との連携強化	- サービス担当者会議延べ37件参加。照会・情報提供28件。昨年度同様新型コロナウイルス感染症予防のため、開催が中止か少人数での実施となり会議件数は少なかったが、照会や情報提供を行い連携強化に努めた。 - 毎月翌月の1日から2日までには実績報告を行った。各事業所へのモニタリング評価も毎月遅れなく提出する事ができた。 - 利用者の様子や空き情報を掲載した広報誌を年4回発行し事業所に配布した。また、変わりがあれば迅速にケアマネ等関係機関に報告し、信頼関係の構築にも努めた。
能力開発	①	資質向上と人材育成	「接遇」「職業倫理」「腰痛予防」「機能訓練」「職員の健康」「入浴介助（2回）」「BIとADL維持等加算」「レクリエーション」について、9回通所ミーティング内で勉強会を実施した。それぞれ職員が講師となり、その後のケアに活かせる具体例も挙げ取り組んだ。 - 全体会は何度か家庭の事情等での欠席があったが、後日動画視聴等行い参加率は100%。施設内研修の参加率は70%。 - 外部研修はレクリエーション研修に1名、虐待予防の研修に1名が参加した。 - 年2回個人面談を実施。主任面談とリーダーによる面談を実施した。
	②	サービス向上、利用満足度を上げる	- 利用者、家族向けアンケートを11月に実施。12月に集計し1月に結果を報告。良い以上96%。リハビリについては別途アンケートを実施し良い以上99%。 - サービス向上委員会を中心に毎月接遇評価を実施。今年度は「来苑後その日の利用者全員に挨拶と会話」「相手の気持ちになって声掛けをする」を目標に取り組み接遇力の向上に繋がった。 - 利用者の変化（体調など）の早期発見に努め、迅速な報告を行った。事故発生件数は2件（転倒、誤薬）だった。
地域	①	地域貢献と地域への発信	4月と10月の奉仕作業にそれぞれ2名ずつ参加した。 - 福生会ニュースを毎月1～3件、計21件掲載した。 - 高校生のボランティアについては、今年度受入れなし。
			利用者数実績：介護保険利用者目標13名/日に対し、11.79名/日。（要介護9.24名/日 要支援・事業対象者2.55名/日）

業務	①	安定的な経営	- 収入月平均2,097,125円（前年度1,885,186円）、年間延べ利用者数3,169人、平均稼働率61.39%/月。年間稼働日数259日。 - 新型コロナウイルス感染症や大雪による休業はなかった。 - 新規利用者2名、利用終了者9名（年間実人数）。 - 各種加算を取得（科学的介護推進体制加算、ADL維持等加算（Ⅰ）、個別機能訓練加算（Ⅰ）イ、個別機能訓練加算（Ⅱ）、サービス提供体制強化加算（Ⅰ）、入浴介助加算（Ⅰ）、介護職員処遇改善加算（Ⅰ）、特定処遇改善加算（Ⅰ）、口腔・栄養スクリーニング加算（Ⅰ））
	②	業務改善	- 各利用者のアセスメントや個人情報を入力。各報告書や計画書等の進捗情報や稼働率の統計等のデータを活用し、業務削減にも繋げた。 - 業務マニュアルの検討、作成を行った。来年度も継続し都度修正していく。 - 年度初めに担当に業務を分担した。毎月業務が遂行できているか確認し、担当によって遅れが出る場合は、協力して遂行した。
	③	職員の健康維持及び福利厚生	- 職員全員が年5日以上の子次有給休暇を取得できた。 - 欠員が出た場合や、書類作成等の残務のため残業は多少あったが、1日1時間を超すことなく上限規制を遵守できた。 - 労働災害の発生はなかった。

I 令和6年度の状況

居宅介護支援においては、利用者が可能な限り住み慣れた地域で生活ができるように質の高いケアマネジメントや切れ目のないサービス提供を行うため、昨今では認知症高齢者への対応力の向上や、在宅における医療ニーズへの対応力強化、医療と介護の連携強化に加え、ヤングケアラーや障がい者、生活困窮者等多様な課題への対応も必要なスキルとなっている。当居宅介護支援事業所でもそのような利用者を担当しており、多様化するニーズに対応したケアマネジメントを行った。また、地域の実情を知り、地域住民との協力を図ることで、地域での利用者の生活を支える支援も行った。令和6年度は介護報酬の改定があり、居宅介護支援では、介護支援専門員を有効活用するため一人当たりの取り扱い件数は増え、担当できる件数が増えた。介護支援専門員の業務範囲が多岐、他分野、広範囲になりつつあり、限られた人数や時間で質の高いケアマネジメントを法令遵守をしつつ実行していくためには、現状に合わせた知識・技術の習得、業務の整理や効率化を図るための取り組み、電磁的方法の活用を行う等働き方改革に継続して取り組んだ。併せて法令で定められた業務の遂行だけに気を奪われるのではなく、相談援助を行う専門職として相談援助技術を身に付けて実践することにも取り組み、ケアマネジメントの質の向上だけではなく相談援助職としてのスキルアップに務めた。

II 評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	利用者の自立を支援する一連のケアマネジメントを適切に行う	- 課題分析の内容を充実させ、整合性のある内容、且つ利用者・家族にわかりやすい内容で作成することに努めた。 - 事業所内で定期的に互いのケアマネジメントとケアプランを確認し、自立支援に資するケアプランの作成と利用者支援に努めた。 - 非常時に継続的にサービス提供できるよう記録の整備を中心に努めた。
	②	医療との連携を強化し、日々の健康管理と入退院支援の充実を図る	- 利用者の医療の状況を把握し、必要な支援を講ずることができた。（受診状況、病状、処方薬の確認、服薬状況等） - 入院時は3日以内に情報提供を行い、退院時はカンファレンスへの参加など連携を図った。プラン変更が必要な利用者は見直しを行い、退院後に自宅での生活がスムーズに再開するように努め、変更後の評価も行った。 - 看取りの対応は事業所内で情報を共有したり相談をして対応した。
能力開発	①	個々の希望や能力に合わせた目標を持ち、達成を目指す	- 介護支援専門員個々の目標を設定し、目標に合わせた学びの計画を立て個々の現状に合わせた研修に参加したり、事業所内勉強会等行った。 - 新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン研修（ZOOM）が多かったが、外部研修・勉強会に参加し、パソコン越しではあるが、他事業所の介護支援専門員と顔の見える関係づくりと情報交換を行った。
地域	①	利用者が住み慣れた地域で生活が続けられるよう、地域ができる支援を知り、つながりを作る	- 生活を支援する地域のサービスを知り、利用者個々の状態に合わせて、必要と思われるサービスや制度が活用できるように調整し見守り体制強化を図った。（地域の民生児童委員との関わり、愛の輪協力員、緊急キット再確認等） - 個別避難計画についても学び作成に向けての準備をした。
業務	①	利用者確保（介護報酬請求利用者を、要介護を70人／月（1人35人）維持（要支援・事業対象者は要介護に換算すると3分の1人）	- 適切なケアマネジメント実施のための管理・調整を毎月請求時行った。 - 法的根拠に基づいた仕事ができるよう、令和6年度報酬改定の改定事項を確認し事業所として対応できるようにした。 1人あたり要介護利用者：月平均33.5件、要支援・事業対象者利用者：月平均11.3件 ※令和6年7月から職員1人体制。
	②	働きやすい職場環境をつくる	常に、定時（所定労働時間）で退社できる取り組みに年間を通して取り組んだが、令和6年7月から職員1人体制となり業務量が増加。よって目標達成できなかった。

令和6年度 事業所別事業報告

事業所 【 賀茂保育園 】

I 令和6年度の状況

令和6年度は、新型コロナウイルス感染症対応はなかったものの、インフルエンザや手足口病等の流行などもあり、感染症への対策は継続し実施した。同時にこれまで入場規制してきた各種事業の開催方法を検討し、県の感染状況等を参考にマスクをはずした保育や行事に係る入場制限の緩和など、最新の情報と専門機関との連携を通じてできる工夫により停滞しない活動を行った。

三朝町の出生数は下がり続け、適正な園児数を確保することが難しくなっている。そのため、園児の確保に向け、質の高い保育の提供はもとより、賀茂保育園としての特色を強く打ち出していく必要がある。賀茂の伝統である、論語の素読やお茶会、坐禅を通した心の教育、発達年齢に応じた運動遊びによる体作りや賀茂地域協議会に代表される地域との積極的な交流、とっとり自然保育認証園として生きる力を養う保育を継続して行った。また、これらの取組をHP等により積極的に発信することにより、保護者の満足度を高め他の市町からでも「賀茂に通わせたい」と保護者から選ばれる保育園を目指した経営を行った。（アンケート結果によれば満足度100%である）

II 評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	質の高い保育の提供	・ 個の見取りと適切な保育に努め、年齢到達目標を見据えた保育を実践 ・ 小学校に向けての架け橋プログラム(接続カリキュラム)の確実な実施 ・ アンケートによる保護者満足度は100%を達成
	②	経営方針の明確化と特色づくり	豊富な自然体験活動をベースとして (知)よく考え、創造性、探求心を持った子 ・ 自然散策、体験活動、英語活動、創作活動 (徳)豊かな心と表現力を持った子 ・ 論語、坐禅、お茶会、科学で遊ぼう (体)健康でたくましい子 ・ 運動の時間の設定、食育活動、歯みがき
	③	ネットの活用と積極的な情報発信	・ 園だより、クラスだより、論語だより、食育だより、人権だより、絵本通信等の積極的な発行 ・ HP(令和5年度edumap学校ウェブサイト大賞特別賞を受賞)やマチコミを活用した情報発信
能力開発	①	職員の資質向上	・ 自己評価に基づく課題の設定と改善 ・ 研究テーマの設定とグループでの取り組みと実践 ・ みなし保育士資格を新たに取得した職員が1名 ・ 他園との年齢別検討会の実施
	②	研修への参加	・ キャリアアップ研修等の専門分野の受講による資質の向上 ・ 県、町主催の研修会参加による資質の向上
	③	外部への公開	・ 県教委、町教委、他園保育士による指導助言 ・ 公開保育を年3回実施
地域	①	他園・小・中学校との交流	・ 町内の園児との交流会 年4回実施 ・ 三朝小学校1年生、5年生との交流それぞれ年2回実施 ・ 三朝中学校トライワーク、保育体験の受け入れの実施 ・ 国際交流 台湾石岡区土牛国民小学校付属保育園との交流を実現
	②	福祉施設・地域との交流	・ 老人福祉施設交流(三喜苑の利用者が園の事業に参加) ・ 賀茂地域協議会との交流の実施。
	③	地域社会への貢献	・ 小、中学校の夏休みボランティア活動の受け入れ ・ 地域でのイベントへの園児の出演、作品展示などの協力 ・ 年5回オープンデー(未就園児対象)の実施
業務	①	職員間の協力体制	・ 園行事等の協力体制の確立 ・ クラス、未満児、以上児担当など、小規模のミーティングの実施 ・ 職員連絡会、運営ミーティングの実施
	②	保護者との信頼関係作り	・ 送迎時を利用した園児の保護者との情報共有 ・ 保護者向け園行事、保育参観の実施 ・ クラス懇談会、個人懇談の実施 ・ 気にかかる園児の積極的な保護者との懇談の実施
	③	安定的な経営	〈園児確保に向けた努力〉 各種たよりの発行やHPの充実による園活動の広報強化の推進。オープンデー、ハロウィンパレードの開催、キュリー祭やハッピーふれあいコンサートへの出演等、積極的参加で三朝町や地域との繋がりを図りながら園児確保に向けた努力を継続。 〈消耗品、水光熱費等の削減と効率化〉 大規模改修に併せて老朽化した施設や設備を改修。加えて無駄を省くことを職員に徹底し節約に努めた。